

# 「シンプル

# イメベスト」を基本理念に、

# エフ・イー製品は海外でも活躍！



株エフ・イー 本社

「旭川しんきん産業振興奨励賞」を受賞した

## 株式会社 エフ・イー 旭川

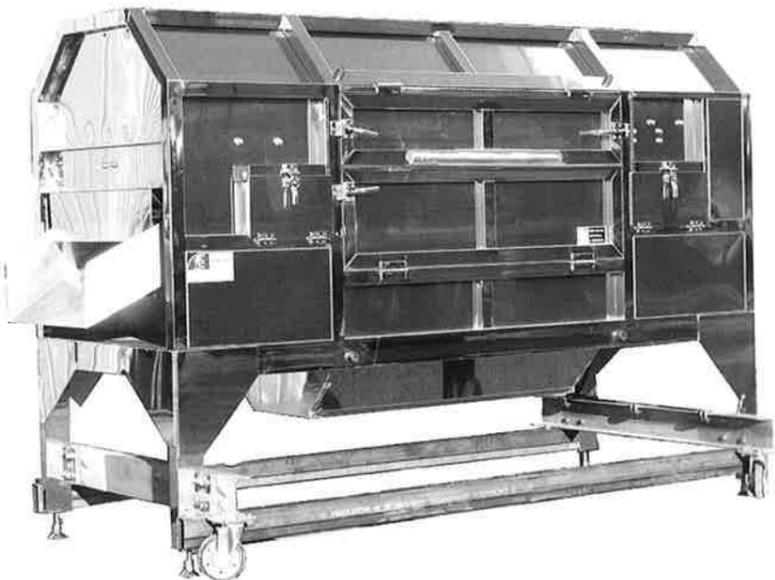
「株エフ・イー」では、昨夏に「自動皮むき装置 DWPシリーズ」を新たに開発している。既に九州方面を始め、全国各地において里芋やじゃが芋の皮むき用として計八機の販売実績を持つている。この度、同皮むき機が「根菜乾式自動皮むき装置」として見事、第十八回（平成二十一年度）旭川しんきん産業振興奨励賞を受賞した。これは一年一回、旭川、富良野地区の企業や個人によって優れた新技術や新商品、新サービスやデザインなどの開発、改善、改良により、産業振興に顕著な貢献が認められる事業に対して贈られる

### ■独自のノウハウによって生み出された新型皮むき機

この「自動皮むき装置 DWPシリーズ」の優れた特徴は、乾式(DWP-W)と水洗式(DWP-WP)の選択が可能で、使用状況に応じた幅広い活躍ができるということ。乾式では、皮むき作業で発生する大量の汚水が発生しないため環境にも優しく、一方の水流式は、土砂汚れのひどい原料の場合に効率的であり、その後の機器の洗浄も簡略化できるため、いずれの場合も結果として優れたコスト削減に結びつくという。独自のノウハウによって丸形ドラムピラーと、多角化ドラムピラーとを組み合わされており、ピラーに直接刃を立てるといった構造にはなっていないので、刃の摩耗の心配もなく、高価な刃の交換も不要だ。原料が踊りながらピラー部分を通過することで、優しくしっかり皮がむける。むくと言うよりは、表皮を薄くそぎ落とすとい

### 会社の概要

本社 旭川市工業団地三条二丁目  
業種 農業用機械製造・販売ほか  
代表取締役社長 佐々木 通彦  
専務取締役 甲斐 啓二  
取締役 湯口 孝二  
取締役 野田 大介  
監査役 佐々木 ユリ  
設立 昭和三四年五月（創業同）  
資本金 一、五〇〇万円（一株五〇〇円）



株エフ・イーが開発した「根菜乾式自動皮むき装置」

新型機では、初期型と比較して約25%もの節水を実現しており、よりいっそうの低コストを可能にしている。

### ■使用する側の立場に立った製品作り

「株エフ・イー」では、こうした機器開発、設計における基本理念は「シンプル イズ ベスト」を目指している。多彩な機能を持たせるとなると、どうしても複雑な構造になってしまう。しかし、佐々木社長は「顧客や実際に使用する方が本当に使いやすく、壊れにくい製品やシステムを創り出すことが開発者の使命。発想やアイデア、工夫を凝らすことによって、限りなく「シンプル」を目指せば、故障が少なく、メンテナンスの容易な製品の開発が可能になる」と、設計者としての志を語っている。こうした試みが、海外でも同社製品が活躍する理由の一つになっているのではないだろうか。

「株エフ・イー」は、主に根菜類を中心とした野菜の選別機や洗浄機の開発、製造を手掛け、道内は元より全国各地

う処理方法だという。そのため、じゃが芋を始め、人参や里芋などといった様々な原料やサイズにも対応することができ。従来型の皮むき機だと、特にSサイズの原料では表皮だけでなく可食部もむいてしまい、歩留まりが悪かった。高圧スチームを用いるタイプの加工機でも、食感の変化を招き、商品価値の低下や流通そのものが見送られるというケースがほとんどだった。しかし、新開発の同皮むき機で処理されたものであれば、カットの必要もなく市場価値が高い。現在、北海道では多様化する消費者ニーズに合わせて、多品種のじゃが芋の生産が始まっているが、形状や硬度はまちまち。しかし、同皮むき機では、わずかな調節で対応が可能となっている。

### ■国内初開発の「葉付き大根洗浄機」

従来までの洗浄機では、構造上、葉の付いたままの大根は取り扱いが難しかった。どうしても葉そのものが傷つけ、商品価値が下がってしまう。そのため、葉付き大根は手洗いで集荷されるが多かった。しかし、冷水での作業は過酷で、しかも水を大量に消費する。栄養価の高い葉をわざわざ切り落とした大根が市場に出回ることが多いのはこのためだ。しかし、このHFURCシリーズは、特殊細毛ブラシによって大根を縦回転で移動させ、さらに、高圧水とで合わせて洗浄されるという特殊構造のため、回転により葉がまとまる様になって洗浄され、傷や葉落ちが極端に少ない。それに同シリーズの最